

[成果情報名] ウンシュウミカンの果実腐敗に対してベルコートフロアブルはペフラン液剤 25 の代替剤として有効である

[要約] ベルコートフロアブル 1000 倍または 2000 倍とベンズイミダゾール系薬剤であるベンレート水和剤の混用散布は、ウンシュウミカンの緑かび病を主体とした果実腐敗に対し防除効果が高い。

[キーワード] ウンシュウミカン、果実腐敗、ベルコートフロアブル、ペフラン液剤 25

[担当] 長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・カンキツ研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 普及

[作成年度] 2023 年度

[背景・ねらい]

カンキツ果実腐敗は緑かび病を主体に問題となっている。その果実腐敗に対して、ペフラン液剤 25 とベンズイミダゾール系薬剤（トップジン M 水和剤やベンレート水和剤等）を混用散布すると、各薬剤の単用散布よりも防腐効果が向上するため、本県では本混用散布が広く普及している。しかし、農薬再評価の影響でペフラン液剤 25 の登録が 2025 年までに失効することになり、早急な代替剤の検討が必要である。そこで、ペフラン液剤と作用機作が類似した薬剤であるベルコートフロアブルの代替剤としての有効性について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1 . 緑かび病を主体とした果実腐敗に対しベルコートフロアブル 1000 倍または 2000 倍とベンレート水和剤 4000 倍との混用散布は、ペフラン液剤 25 2000 倍とベンレート水和剤 4000 倍の混用散布と防除価は同等であり、防除効果は高い（表 1 ）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . ベルコートフロアブルは 5 ℃ 以下（概ね 12 月以降）では増粘あるいは固化により、容器から取り出しにくくなることがあるので、50 ℃ 以上の湯に容器の肩まで浸し、1 時間以上経過した後、よく振って使用する。
- 2 . 試験圃場で分離された緑かび病菌 40 菌株はベンズイミダゾール系薬剤に対し感受性である。
- 3 . 「青島温州」等の長期貯蔵する品種において問題となる軸腐病の効果を確認する必要がある。

[具体的データ]

表 1 各混用散布における緑かび病に対する防除効果

供試薬剤	防除価 (腐敗果率 %)		
	2022年		2023年
	収穫 7 日前散布	収穫21日前散布	収穫13日前散布
ベンレート水和剤4000倍 + ベルコートフロアブル1000倍	100(0)	98.7(0.5)	100(0)
ベンレート水和剤4000倍 + ベルコートフロアブル2000倍	100(0)	98.7(0.5)	92.8(1.3)
ベンレート水和剤4000倍 + ペフラン液剤25 2000倍	100(0)	100(0)	100(0)
無散布	`(13.5)	`(39.5)	`(18.1)

* 散布日・品種 2022年10月24日、2023年10月25日・「原口早生」

* 収穫当日に2022年は深さ2mm、2023年は3mmのハリで赤道部に4か所、付傷し、室温下で14日後まで貯蔵した。累積腐敗果率から防除価を算出。

* 防除価は数値が高い方が効果が高く最大値は100

[その他]

研究課題名：カンキツ病害虫の防除法

予算区分：県単

研究期間：2022、2023年度

研究担当者：小嶺正敬